

# 平成30(2018)年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」 (地域・コミュニティ活動助成) 活動中間報告

## 団体名

特定非営利活動法人しんしろドリーム荘

## 活動のテーマ

地域での安住を支えるショーファー（お抱え運転）システムの社会実験

## 9月までに達成できた事項(箇条書き)

### (1) 実行体制が確立した

・助成金により、5月と7月にワークショップを開催し、延べ30人の方から意見を受け、基本的な考え方を整理することができた。また、ワークショップ参加者の中からスタッフへの参加希望者もあり、事務局体制が6名に増員し体制が確立した。また、H&Cの報告から本事業に関心を持たれたとのことで、有償運送事業の道路運送法改正に造詣が深い安藤雄太先生が東京から来訪され、ご指導いただくとともに、当事業の協力者となって頂けたことは大きな力となった。

### (2) ニーズが把握できた

・助成金により、6・7月に現地調査を行うことができ、車が運転できないと生活ができない実態、実際に利用する場合の目的、ショーファー役になる者の希望などのニーズを正確に把握することができた。

### (3) 具体的な利用者が確保できた

・チラシや口コミで社会実験としてのショーファー及び利用者を募集したところ、当初想定したモデル地区を超えて、全市域から応募があり、結果的に、ショーファー6名、利用者6名を確保できた。

## 今後の活動予定と平成31年3月末時点の達成予定項目

10月～12月

### (1) ショーファーシステムの試行

- ・実際に送迎や生活支援を実施する。
- ・当初予定していたモデル地区以外からの利用希望者があったので、希望者優先で実施する。

### (2) 第3回ワークショップの実施

- ・試行結果を分析する。

1月～2月

### (1) 事務局での検討

- ・事務局で検討会を行い、検証報告書を作成する。

### (2) 第4回ワークショップの実施

- ・事務局の検討結果を踏まえ検証し、改善点を探り、システムの見直しを行う。

3月

- ・成果報告書を作成し、関係機関に配布する。

## ○作手地区



↑市のバスは、平日、朝1本、夕1本しかなく、歩いてバス停に来られる範囲には4人ほどしか住んでいない。



↑自宅の軽トラックをご主人が運転し、奥さんを助手席に乗せて、買い物や通院している。



↑この方は100歳。80歳の子ども夫婦の車を使って生活している。

○鳳来地区



↑ 郵便ポストがあぜ道に立っているほど店がない。



↑ 急傾斜地に高齢者が住み続けている。ここに暮らすことが生きることだという。



↑ 山奥まで道路は整備されているので、交通手段さえあれば生活できる。

以上